

政治や世の中の動きに一喜一憂したり、関心を持たなくても、人々が幸せに暮らせる日々はいつ来るのだろう。

世界はもちろん日本もますます不安と危機に満ちた時代になってきた。長い歴史の中で、人類は生への適応力、寛容と平穏、ささやかな幸福と共生の道を必死に求めてきたのではなかったのか。

なぜこのような危険で閉塞的な時代になってしまったのか。なぜ？ どうして？ 疑問はいつまでもなくなる。

エディットは27年目の正月を迎える。「縁」を大切に、夢と危機感を持って、編集力と忍耐力を武器に、たとえ黒子であり続けても、1点ずつの本や教材が世に出ることの「楽しみ」を胸に秘めて、必死に活動してきた。

厳しさを増す業界の中で、「編集」は「出版」の一部ではなく、『出版』は「編集」の一部である」という考えに立って、編集力の向上とノウハウの蓄積に邁進してきた。

そして社員には「編集力は「人間力」である」と言い続けてきた。

エディットは皆さんのおかげで、昨年恒例の2泊3日の社員旅行—黒部立山アルペンルートの旅をさせていただいた。

しかし最大のイベントは何と言っても16年目の名古屋本社の大移転。広さはあまり変わらないけれど、窓の多いワンフロアのきれいなオフィスに引っ越すことができた。

それだけでなく、昨今話題の長時間労働の問題にも積極的に取り組み、「編集道場の健全化」も実りつつある。

おめでとうございます

小林哲夫

エディットはまた新しいスタートラインに立ったといえる。

私の個人的な1年はどうであったか。情けないことになかなか思い出すことができない。

私の趣味の写真ファイルを見ると、1月は出版ネット関西新年会、2月はパラワン島の旅、3月は永江朗氏の編集教室、4月は東京ステーションギャラリー、5月は名古屋エキトピア、6月はAJEC軽井沢宿泊、7月は社員旅行と隅田川花火大会、8月は伊良湖岬、9月は高山&濁河温泉、10月は愛知トリエンナーレに中学同級会、11月は神楽坂秋祭り、12月は京都祇園&南禅寺の旅それから奈良旅行と、おもな動きをピックアップすると、けっこう出かけている。

しかし片一端から記憶は薄れていく。歳のせいでもあるけれど、毎日毎日マネジメント業で頭を使う日々が多く、気持ちに余裕がないせいだろう。嫌なことは忘れてもいいけれど、楽しいことも忘れてしまう。情けない限りだ。

昨年の賀状に、「自由は孤独と引き換えに手に入れるものらしいが、今年はどんな自由が待っているのか。まずは新しい『夢中』を探すことから始めよう」と書いた。孤独と交換に得た自由は、実際に何をもたらしたのだろう。

確かに罪滅ぼしの気持ちと暮らしへの興味は与えてくれたけれど、「夢中になる人」を見つけるのは難しい。

今年、古希を迎える。残された時間はどれだけあるのだろうか。



エディット社員旅行—黒部立山アルペンルートの旅(2016年7月)



引っ越しました—気分一新、エディット名古屋本社の新オフィス(2016年10月)



世界で最も美しい秘境—パラワン島の旅(2016年02月) photo by Kobayashi

企画・執筆・編集・制作
株式会社 エディット
代表取締役 **小林哲夫**
<http://www.edit-jp.com/>

名古屋本社	〒451-0046 名古屋市西区牛島町5-2 名駅TKビル6F TEL:052-586-0631(代) FAX:052-586-0632
東京オフィス	〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン727号 TEL:03-5225-0981(代) FAX:03-3266-5072
大阪オフィス	〒541-0041 大阪市中央区北浜3-5-19 淀屋橋ホワイトビル606号 TEL:06-6208-0501(代) FAX:06-6208-0502